

2023年8月14日(月) ハコラク9月号 掲載

ドクターコラム『子どもの消化管内視鏡検査』

小児科 佐々木 吉明 医長

## 子どもの消化管内視鏡検査



函館中央病院

小児科

佐々木 吉明 医長

子どもの腹痛の原因は便秘症や感染性胃腸炎（かぜも含む）が大多数ですが、最近原因不明の腸炎である炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病）にかかる子どもの数が世界的に増えてきております。2週間以上続く腹痛や下痢<sup>げり</sup>、体重減少、血便などを認められた場合は炎症性腸疾患を考慮しなければなりません。潰瘍性大腸炎は大腸の表面の粘膜層のみに炎症を認め、クローン病は口から肛門までの全消化管に炎症がおき、

粘膜層より下層まで炎症がおきるため消化管に穴が開くことがあります。診断するためには実際に消化管内視鏡検査（胃カメラや大腸カメラ）で胃や腸を観察して、一部粘膜を取って顕微鏡で炎症の状態を確認することが必要となります。成人の皆さんでもなるべく胃カメラや大腸カメラなどの内視鏡検査受けたくありませんよね？お子さんにおいても当然であり、保護者の方々もなるべく

消化管内視鏡検査を受けさせたくないですよ？そこは医師として悩むことです。

お腹が痛くて辛い時間は続きませんが、消化管内視鏡検査以外の血液検査や便検査、X線検査、腹部超音波検査（エコー）などを行いながら診断し、ある程度病名をしばっていきながら、お子さんや保護者の方々に実物の内視鏡を見て納得していただき内視鏡検査を行います。大腸内視鏡では検査前に多量の水（腸管洗浄剤）と飲む必要がありますが、本人の好みもあるの下剤や浣腸を組み合わせて対応しております。細い内視鏡（直径6mm程度）を使い、眠り薬や痛み止めを適切に使いながら本人に負担をかけないよう行っております。

炎症性腸疾患は現在において根治療法はなく、寛解と再燃を繰り返すこともあり、一生にわたって付き合わなければなりません。二度と消化管内視鏡検査を受けたくないとお子さんに思わせないように、また、診断後に内視鏡以外の検査で炎症の状況を確認できる方法がないか現在模索中です。



函館中央病院 函館市本町33-2 ☎0138-52-1231(代) <https://chubyou.com/>

■診療科目/糖尿病・内分泌内科、消化器内科、腫瘍内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科  
脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科など、全26科目  
■受付時間/8:30~11:30、13:30~16:00 ※土曜は午前のみ。診療科や時間帯によっては要予約。  
■休日/日曜・祝日・年末年始

